

「取りこぼさない英語教育」を実現するために私ができること

人間科学部 コミュニケーション学科 4年 中村友香
グダニスク大学(Gdańsk University)

1. テーマ設定の理由

私が今回の留学で取り組んだSDGs課題のテーマは、「取りこぼさない英語教育」を実現するために私ができること、です。私は、SDGsの17個の目標の中で「4. 質の高い教育をみんなに」を選び、ヨーロッパの教育システム、特に英語教育に焦点を当てて調査してきました。

私がこのテーマに興味を持った理由は以下の二点です。一つ目は、ヨーロッパ諸国の人々の英語力の高さに興味があったからです。日本人と同じく第二言語として英語を扱っているのにもかかわらず、2022年英語能力指数ランキングでは上位10カ国中9カ国がヨーロッパの国々という結果でした。また、日本は世界111カ国中80位、アジアでの順位も24カ国中14位という悔しい結果。近年日本では、早期英語教育が始まり、小学校3、4年生から英語を教科として学んでいます。しかし、実際の日本人の平均英語力はヨーロッパ諸国から大幅に後れを取っています。そこで、日本の英語教育とヨーロッパ諸国の英語教育ではどのような相違点があるのかを調査しようと思いました。

二つ目は、多国籍の生徒たちが集まった教室でどのような教育方法を行っているのかが興味があったからです。ヨーロッパにはESS(Erasmus)というヨーロッパ圏内にある大学が連携している、世界最大規模の交換留学制度があります。そのため、教室には様々なバックグラウンドを持った生徒たちが集まっています。そんな生徒たちが平等に学びを吸収するには、どのような工夫がなされているのかを調査しようと思いました。

2. ポーランドでの活動

私は、ポーランドのグダニスク大学言語学部英語教育学科に所属し、現地の学生と一緒にポーランド及びヨーロッパの英語教育に関する授業を受講しました。そこでは、より良い英語教育を子供たちに提供するために、第二言語として英語を取り扱っている国が実践すべきことは何か、生徒が居心地の良い環境で安心して伸び伸びと教育を受けられるようにするために、教員は何を行うべきか等、あらゆるテーマについてインプットしたり、母国の英語教育の良い点や改善すべき点をディスカッションをしたりして学びを深めました。

また、様々なバックグラウンドを持つヨーロッパ諸国出身の学生にアンケート調査、インタビュー活動を行いました。例えば、2022年度英語能力指数ランキング第1位であるオランダ人学生にアンケート調査とインタビュー活動を実施し、幼少期から今現在の教育を振り返ってもらいました。オランダでは、生まれて間もない頃から英語をインプットさせるため、幼いころから英語に触れる機会が日本人より圧倒的に多いということ、英語を話すことに対して抵抗がほとんどないこと、間違いを指摘するのではなく、とにかくほめて伸ばす教育法を取り入れていること、生徒一人一人のペースや学力に合わせてティーチングを行っていることが英語力向上に直結しているということがわかりました。

3. 日本との比較

私は活動を通して、日本の英語教育に足りないことは「生徒一人ひとりに合った教育法を提供すること」だと強く感じました。日本の教育現場では、員不足が深刻な問題となっており、約40人の生徒を1人の教員が管理することが当たり前になってしまっているため、生徒一人ひとりに質の高いと思ってもらえる教育を提供することが困難な環境になっています。しかし、ヨーロッパ諸国では日本の半分の約20人の生徒につき教員が2～4人配置されています。そのため、生徒を取りこぼさずに質の高い教育を平等に提供することが可能です。また、生徒たちが毎授業終わりに書く振り返りノートには、できなかった問題や反省点を書くのではなく、できたことや成長したこと、楽しかったことを書かせる項目だけを設けることで、生徒たちはポジティブな気持ちでその授業を終えることができていました。そのような活動を通して、生徒たちの中にあるポジティブマインドを育てることで、「学ぶ」ことに対してマイナスな感情ではなく、喜びが結びつくようになっていました。対して日本の教育は、できない部分を指摘して改善していったり、振り返りノートには必ず反省点を書く欄を設けたりと、ネガティブな感情を生みやすい環境になってしまっているなどと思います。このような様々な要因が重なり、日本人は消極的な性格を持つ人が多いのではないかと考えます。

4. 私が日本に提案できること

この目標を達成するために、実践すべきこととして、以下の二点を挙げます。一つ目は、「生徒一人ひとりに合ったレベルやスピード感で英語教育を提供すること」です。具体的には、ICTを活用しながら生徒一人ひとりの英語力を分析し、生徒が最も効率よく英語力を伸ばすために必要な指導や問題を提供することで、生徒たちが伸び伸びと学ぶことができる環境を作ることができます。また、生徒それぞれの性格を理解し、コミュニケーションを積極的に取りながら指導することで、信頼関係を築くことができ、生徒が安心して学べる環境を作ることができます。

二つ目は、「学ぶこと＝楽しい」を実感してもらおうことです。日本は、受験のための英語を勉強していますが、英語の本来の姿である「コミュニケーションツールのための英語」を英会話スクールだけでなく、教育現場でも提供するべきだと考えます。定期テストや受験のために単語と文法をひたすら覚える詰め込み式の勉強法で英語をインプットするのではなく、英語を使ってコミュニケーションを取ることで、言語を使える楽しさを実感してもらいたいです。その結果が、日本の英語力向上に繋がると思います。

以上のことを自分自身が成し遂げ、まずは同じ職場の教員同士で共有して実践し、そしてその後日本中の教育現場にこの方法を共有して取り入れてもらうことで、私の将来の目標である「日本の英語教育システムを変えること」に繋がると思います。